

# 名古屋市公会堂×愛知県立芸術大学×宗次ホール提携企画 クラシック音楽で迎える名古屋市公会堂 ～公会堂は若者たちのコンサートの聖地だった～

## 事業レポート



2月16日（金）に、名古屋市内の栄にある宗次ホールでコンサートを開催しました。  
当日の様子をご報告します。



今回の公演は、公共ホールと民間ホール、そして大学の三者が協力し合うことで実現した、大変珍しい企画です。

事前に募集した名古屋市公会堂にまつわる様々な思い出を朗読し、演奏とともに楽しんでいただくという、内容的にもユニークな企画でした。



宗次ホールは「カレーハウスCoCo壱番屋」の創業者、宗次徳二氏が私財を投じて建設したクラシック専用ホール。310席の室内楽ホールは音響の良さに定評があります。

今回は、背景に映像を写して雰囲気盛り上げています。

まず最初に登場したのは、名古屋の音楽史を研究されている愛知県立芸術大学の井上さつき教授。このコンサートの出演者の選定や曲目構成も担当しました。

クラシックを始め、ロックやポップスなど名古屋の音楽文化の発展に大きな役割を果たした公会堂の歴史を解説しました。



続いて演奏が始まりました。出演は、愛知県立芸術大学の卒業生による四重奏団、カルテット・アホイ（アホイとはチェコ語で「こんにちは」という意味だそうです）の皆さん。

1曲目はベートーヴェンの弦楽四重奏曲第4番より第4楽章です。

昭和10年に公会堂で開催された名古屋ストリングクワルテットの公演で演奏された曲です。



その後、クラシック曲や日本の唱歌メドレーを次々と演奏しました。

そして演奏の合間には、応募作品の中から選ばれた8編の思い出エピソードを、元CBCアナウンサーの小堀勝啓さんが味わい深い朗読で披露しました。

当時を知る方にとっては懐かしく共感できることから、エッと驚くような初めて知ることまで、様々なエピソードが紹介されました。

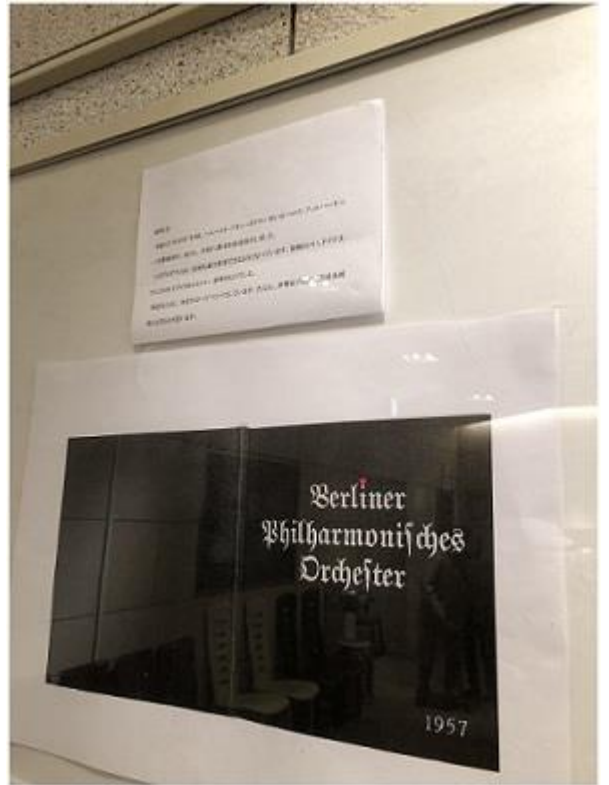




ハワイエには、1980年代を中心に公会堂で公演を行った海外アーティストたちのポスターも展示しました。

これらのポスターは、CBCテレビが保管している貴重なもので、この日のためにお借りしました。

休憩時間や終演後にはお客さまが足を止めてじっくりとポスターに見入っていました。



また事前に思い出エピソードとともに募集した、公会堂の過去の公演に関する資料も展示しました。

こちらにも貴重なものばかりで、写真は昭和32年にベルリンフィルが初来日して公会堂で演奏したときのプログラムです。



終演後、ロビーでお客さまを送り出した後、そろって記念撮影。

左から小堀勝啓さん、ヴァイオリンの加川由梨さん、ヴィオラの橋本歩さん、ヴァイオリンの尾高詩音里さん、そしてチェロの石本卓斗さん。皆さん、お疲れ様でした。

そしてご来場いただいた多くの皆さま、ありがとうございました。

以下にごく一部ですが、アンケートにお寄せいただいた皆さまの感想をご紹介します。

- このような形の演奏会は初めてでしたが、たまにはいいですね。
- 公会堂の思い出はいっぱい！企画が良い。
- 小中高時代の公会堂のなつかしさがよみがえった。
- 小学生の頃からの思い出の公会堂を見ることが出来て涙しました。舞台上って踊った思い出もありまして感激して泣いてしまいました。
- 鶴舞小学校OBなのでいつも公会堂が遊び場でした。なつかしい。高校の時、文化祭でバンドをやっていたのでステージにも立ちました。
- 名古屋市公会堂にはあまり行ったことはないがその歴史や親しんできた方々の話が小堀アナウンサーの朗読できけてよかった。合間の演奏もよく知っている曲ばかりで気持ちよく流れて、朗読の内容とじっくりしていてよかったです。
- 静かなとってもなつかしい曲ばかりでしっかりいい気持ちになりました。ありがとうございました。
- なじみの曲もあり、楽しかったです。
- 小堀さんの朗読が良い。写真も珍しい。曲も素敵。
- 朗読、とても良かったです。じんときました。演奏もとても雰囲気が出て、映像とマッチしていました。このような企画をまたお願いします。
- 小堀さんの朗読が上手で内容も秀逸。とてもいやされました。
- いろいろなエピソードと生演奏の組合せがおしゃれ。

アンケートにお答えいただいた皆さま、ありがとうございました。

名古屋市公会堂はあと1年、改修工事が続き、再オープンは来年4月になります。

ぜひ期待してお待ちください。